



(題字・葛西 聖司)

CONTENTS

- 1ページ ★新世紀を迎えて・山崎厚太会長挨拶
- 2ページ ★設立総会 ★ホームカミングデー
- 3ページ ★新年会 ★観桜会 ★「世話役さん」求む ★広告募集
- 4ページ ★計報 ★大阪分会結成のお願い ★新会員募集  
★会費納入のお願い ★原稿募集 ★編集後記

# 2001年第一歩が始まった!!



平成13年5月19日、中央大学駿河台記念館で行われた学員総会の席上、「49年白門会」の支部旗が、大西学員会長から授与された。次の定期総会で、会員の皆様の前に披露致します。



## 新世紀を迎えて

### 49年白門会会長 山崎厚太

私達が卒業して28年目に入り、私達が同期が集まった時、何やらホッとしたものを感じる年代になりました。大学には新入生が入学し、社会では新入社員が入社してきました。毎年毎年新しい新陳代謝が行われています。私達も人に教えられる立場から、教える立場へと変わりました。

過日ある本を読んだ時、次のような事が書いてありました。「100人の人にも一度人生をやり直すチャンスを与えろと言ったら、全員が手を挙げましたが、その人生が今までと寸分違わぬ



命とすれば、今の私達の年齢は卒業から今までの人生の何倍もの時間があります。ケンタッキーフライドチキンの創業者カーネルサンダースも64〜65歳で事業を始めたそうですし、米国IBMには100歳を超えた社員がいるということです。

人生の繰り返しであると言ったら、手を挙げた人は2〜3人だった。」そうです。私達の場合はどうでしょうか。すぐ手を挙げられる人、考えて挙げる人、結局挙げない人、色々あると思います。ただ言える事は、その決定はあくまで現時点の事だということです。

### 挑戦はこれからだ!!

人の生物年齢は80歳だということです。病気をしなければ皆80歳まで生きる可能性があるのです。私達はその年よりも遙かに下の年代で

同期会は私達より若い年代の人は入ってきません。同期会を永く存続させる為に、皆さん全員に何時までも頑張つて会を支えていただく必要があります。新世紀を迎え、全員で新たなスタートを切りましょう。

# 49年白門会結成からもう1年!!

20世紀最後の7月2日(日)に「49年白門会」が設立して、早くも1年がたとうとしていきます。準備に1年以上かけ、設立後もいろいろ活動してきました。この1年間の活動をレポートしてみました。これからの1年間は皆さんも参加してください。

## 設立総会 2000年7月2日(日)

この日の御茶ノ水は、梅雨時とは思えない焼き付けるような真夏の陽射しが照り付けていた。20世紀最後の7月2日は暑い記念すべき日曜日になった。

昭和49年に中央大学を卒業して、実に26年ぶりに再会したのだ。26年前の校舎は既に無く、御茶ノ水駅界限はすっかり変わってしまったが、総会の会場である中央大学駿河台記念館に集まってくる同期の皆さんは、学生時代の顔に戻っていた。

受付の近くで再会を喜び合う同期、記憶を手繰り寄せるようにしてお互いを確認し合う同期等の姿を見たら、1年以上に渡ってこの日の為に準備してきた苦労が報われる思いがした。

思えば、この日から遡ること14か月前、たった7名からスタートした同期会の準備会。果たして会ができるのか? 会員をどうやって集めたら良いのか? 手探り状態で始めた準備委員会だった。10月の「ホームカミングデー」で22名の会員を集めて設立の目的が立った。会合を重ねること16回。ついに設立総会の日がきた。



定刻の午後3時、60余名の出席者が見つめる中、司会を務める後藤さんが緊張の第一声を発し、設立総会が始まった。

会長に山崎厚太さんを選出し、予算案、事業計画案、役員選出と滞りなく進み、山崎会長が「49年白門会」の設立を宣言して終了した。

総会後、会場を別室に移して設立記念パーティーが始まった。NHKのアナウンサーとして活躍している葛西聖司さんの司会で、山崎会長の挨拶に続き、学会の大西保会長、三宅邦彦中大常任理事からお祝いの

言葉をいただいた。

テーブルを囲んでの歓談は食べる事も忘れ、26年の歳月をアツという間に埋めてしまった。2時間のパーティーでしたが、ビンゴゲーム有り、突然の猛烈な雷雨有り、26年振りに歌う校歌有りで、気持ちも顔も学生時代に戻ったようだった。最後は、応援部にいた松村さんに締めとしてエールをやって頂きお開きになりました。(大竹 力三)

## ホームカミングデー

2000年10月8日(日)

秋晴れの日曜日、多摩キャンパスで大学と学会共催による「第11回中央大学ホームカミングデー」が行われた。昨年は私達昭和49年卒がメインゲストとして招待され、同期会の会員を2名集めたものでした。今年には昭和50年卒、55年卒、25年卒がメインゲストで、50年卒と55年卒は会場で同期会の会員を募集していました。ホームカミングデーを契機に同期会を設立するのはどこも同じみたいです。

7月の設立総会後、初めての同期との再会には山崎会長を始め、14名



の会員が集まりました。午後1時からの懇親パーティーでは、司会が同期のNHKアナウンサーの葛西聖司さんでしたので、途中で「49年白門会」の宣伝をしていただきました。おかげで会場にいた同期1名が会員の加入手続きをしてくれました。

このホームカミングデーでも、旗やプラカードなどを持参しての各支部毎の参加が目につきました。「49年白門会」も設立総会で使った看板を持ち出しテーブルの上に置き、支部の設立をアピールしました。

懇親会では料理もお酒もたっぷりあり、豪華なブレゼントや、中大出身の歌手の歌謡ショーもあったりして楽しく過ごせました。

家族連れの方も見受けられました。「49年白門会」も次回からは家族同伴での参加も楽しいかもしれな

### 山崎司平法律事務所

第二東京弁護士会所属  
日本弁護士国民年金基金常務理事  
中大法学部非常勤講師

辯護士 山崎 司平

東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階  
電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

### 主要取扱申請書類等

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行

行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

# 新年会 2001年 1月27日(土)

当日、関東地方は朝から雪だった。既に都心で8cmの積雪、午後からは風も強まるという天気予報だった。交通機関は大丈夫だろうか？ 新年会が中止になる

のではないだろうか？ なにはともあれ市ヶ谷キャンパスに向かつて足を進めた。

玄関で「49年白門会」の旗を持った宮川副会長が出迎えてくれた。参加予定者36名の内、定



刻の4時に集まったのは24名。よく見ると会場内には長靴姿があちこちに見えた。その姿がピッタリはまっているのだから、みんな年たよなあ。

30人目の同期が到着したところで新年会が開催された。「総会の時は炎天下、そして土砂降りの雷雨。今日は大雪と49年白門会は何かにつけ天候に恵まれています」との山崎会長の挨拶で一同大笑い。中島事務局長の乾杯の音頭で宴となった。

話題はもっぱら「雪」。横浜は16cmだとか、埼玉では雪量過ぎて大変だったとか、バスが不通になったとか。しかし、何としても出席しようと思

かけてきた同期の仲間の顔はそれぞれ輝いていた。結局、雪で参加でき

ないと連絡のあったのは3名で、33名が出席した。

時間が経つにつれ、おでんや熱燗等暖かい物が好まれ、どの顔も紅顔。総会以来暫くぶりに会う同期、ホームカミングデーで交友を深めた同期

また新規に加入された同期等歓談の輪が咲いた。長靴姿で飲み交す光景は一昔前の土方姿、いや、中央大学のバンカラスタイルそのものではないかと思つたほど。わざわざこの日のために、四国は善通寺市から高嶋さんが総会に引き続き駆け付け

てくれ、新年会を盛り上げてくれた。葛西さんの巧みな司会でビンゴゲームも行われ、最後は輪になって肩を組み「惜別の歌」を歌った。参加した同期は、雪が降ると、この新年会を思い出すに違いない。(千葉 幸嗣)

## 観桜会 2001年 4月8日(日)

春うららかな快晴の下、中央大学多摩キャンパスにおいて、毎年恒例の学生会主催による観桜会が行われました。支部を挙げての参加も多く、36年白門会や39年白門会の諸先輩の結束ぶりには目を見張るものがありました。私達49年白門会も、山崎会長の下、18名が参加しました。

例年より桜の開花が早く、当日は満開のピークは過ぎていました。約400人の卒業生やその家族の方々がキ

ャンパス内の散り始めた花吹雪の中、淡いピンクの花の絨毯を踏み締めるながらの観桜会になりました。

午後3時より1号館において130名の参加をもつて懇親会が開催されました。学生会の大西会長、中央大学の三宅常任理事の挨拶に続いて青柳西多摩支部の浅見支部長の乾杯の音頭で宴に入りました。

気温、湿度共に冷えたビールにはもつてこいで、五臓六腑に染み渡りました。料理も昨年と比べると質量共にアップした感がありました。

新年会以来の再会で、近況を報告しあったり、新年会の時の話題で1時間半はアツという間に過ぎてしまいました。

会員の皆様で未だ観桜会に参加されたことがない方、また多摩校舎に一度も足を踏み入れたことがない方も、この機会にご参加頂ければと思います。(村岡 潤)



# 「世話役さん」求む

会も時間の経過とともに少しずつ形になっていきます。新年会で事業活動についてご意見を伺いましたところ、旅行会、ハイキングの会、観劇の会、釣愛好会、グルメの会創りに数多の希望が集まりました。そこでこの意向を具体化していくため、これらについて幹事を募りたいと思います。幹事即ち世話役さんです。

それは49会を楽しく盛り上げ、支えて行く柱的役割です。幹事活動は時間的負担を強いられることが予想されます。できるだけ個の負担を小さくするため、それぞれの会運営は複数幹事態勢で進めることが良策かと考えます。ひとりでも多くの方が参加され、幹事会活動の中で49会の別の楽しみを探されますことを、お願いとともに望むものです。

是非、事務局の方へご連絡ください。(増田 勝美)

## 広告募集

この会報を作る費用を広告収入である程度賄う予定です。

広告スペースを5千円で提供しますのでご協力お願い致します。原稿の版下があればそのまま使いますが、無ければ広告原稿を広報部で作成します。

お申し込み、ご相談は事務局までにご連絡ください。

## 電気設備・設計施工 FUNAMI

栃木県庁 宇都宮市役所指定 関東一円

株式会社 船見組

代表取締役社長 船見 二三男

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾5丁目3番6号

TEL 028-622-0321 (代)

FAX 028-624-4499

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

# 名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざァ言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063



# 計報



高嶋重利氏  
(法)  
香川県善通寺市

5月14日早朝、高嶋重利氏が逝去されました。享年71歳でした。前日まで元気で、6月の総会を楽しみにしていたそうです。

通信教育で中大に学び、東京と地元の善通寺市で学習塾を開き、教育に情熱を傾けた人でした。

昨年設立の香川県善通寺市から駆付けられて、同期会には欠かせない人でした。この会報の創刊号にも、人柄が滲み出る実直な文を寄せていただいたております。中大を愛し、年の差を越えて同期との出会いを大切にしてくれた高嶋氏と出会えたことは、同期の誇りでした。ご冥福をお祈り致します。

## 事業部より

### 大阪分会結成のお願い

「49年白門会」もこの7月で結成1周年を迎え、順調に活動を続けてきました。この1年間を振り返りますと、活動の中心が東京となり、地方の会員の皆様にご不便をかけてしまっています。

この度「49年白門会」の更なる発展と関西以西の拠点として「大阪分会」の結成を検討することになりました。関西以西の会員の方で、「大阪分会」結成にご協力を頂ける方を募っています。結成に向けては現幹事も協力致しますので、是非とも「大阪分会」結成にご協力を願います。事務局までご一報ください。

### 新会員募集

「49年白門会」では、現在新しい会員を募集しています。現会員の方で未加入の友達を、一人紹介して頂く。

## 編集 後記

### 母校は 御茶ノ水...

今年の桜は気の早いせつちかな桜で、友人の日君に似ている。4月8日は例年なら五分咲きがせいぜいの頃合だが、多摩校舎の桜は何とか散るのを耐えている風情で、庭はうす桃色の幾千万もの花びらで覆われ、地肌を淡いピンクに変えていた。

その日、初夏のような陽射しの中を多摩都市モノレールで多摩校舎に向かった。車窓から眺めた多摩の野

ければ、会員数は500名近くになります。昭和49年に中央大学を卒業した同期は8千人強います。幹事一同として、会員数を最低でも卒業生の1割を目標にしています。そのためにも、会員の増員を現会員の皆様にお願ひする次第です。

是非ともこの方なら入会して頂けるといふ人がいらつしやいましたら、事務局までご一報ください。よろしくお願いいたします。

### 平成13年度の会費納入のお願い

「49年白門会」はこの7月をもって第2年目に入ります。会の運営は順調に進んでいますが、運営の柱となりますのが、会員の皆様からの年会費です。会員の皆様には平成13年度会費納入のお願いをご通知致します。

山は、茶色から淡い緑へと確実に芽吹きが始まっているのが見えた。

いつものように鼻の頭に汗をかきながら日君が足早にやってきた。二人で多摩校舎の斜面を歩く。御茶ノ水に集い、49年白門会の設立を誓い絆を確かめあつた去年の7月は随分と昔のことのようにも思える。

私達の母校の思い出は、やはり御

## 会費の納入についてのお願い

中央大学49年白門会会計担当

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替 (手数料は不要です)

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要です)

銀行名 東京三菱銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」

口座名 「白門49会 (ハクモンヨンキュウカイ)」

(注) 銀行口座は会の正式名称が決定する前の仮受口座として開設したため、口座名義が正式会名と異なりますので、注意してください。

### 49年白門会連絡先・事務局

住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

49年白門会副会長 宮川 保  
中央大学学生会事務局 電話 03-3219-6175  
FAX 03-3219-6177

### 原稿を募集します

この会報は年に春・秋の2回発行する予定です。

会員の皆様の声をドンドン取り入れて、楽しいコミュニケーションができる会報を目指しています。

次号は「50歳になって思う事」というテーマで皆様からの原稿を募集します。50歳の近況、50歳から見た学生時代、これからの夢等、400字前後で事務局にお送りください。

企画案、ご意見も事務局までにお寄せください。

茶ノ水であつて、移転した多摩校舎にはまだ、というより何も無いのかもしれない。

新しい酒には新しい革袋が似合うというが、27年の時を重ねた古酒には土埃に塗れた甕が良く似合うし、それがまた表に旨いものだ。

桜酒に頬を染めた私達に、多摩校舎の風がさわやかに通り過ぎて、とても気持ちが良い。(小林 隆彦)